

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **05-294820**

(43)Date of publication of application : **09.11.1993**

(51)Int.Cl.

A61K 7/48

A61K 7/00

A61K 7/42

(21)Application number : **04-137479**

(71)Applicant : **YOSHIKAWA TAKEHIRO
YOSHIKAWA MARIKO**

(22)Date of filing : **15.04.1992**

(72)Inventor : **YOSHIKAWA TAKEHIRO
YOSHIKAWA MARIKO**

(54) **COSMETIC**

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent aging of skin caused by vitamin D-containing cosmetic and to enhance beautiful effects on skin and tanning effects by blending a vitamin D or a derivative having vitamin D-like activity with vitamin C or a derivative having vitamin C-like activity.

CONSTITUTION: A cosmetic comprising vitamin D or a derivative having vitamin D-like activity is blended with vitamin C or a derivative having vitamin C-like activity in a ratio of vitamin D and vitamin C of 1:0.001-1,000 in amounts to give 0.00001-5wt.% vitamin D and vitamin C, respectively.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-294820

(43) 公開日 平成5年(1993)11月9日

(51) Int. Cl. ⁵	識別記号	F I
A61K 7/48	9051-4C	
7/00	H 9165-4C	
	X 9165-4C	
7/42	7252-4C	

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

(21) 出願番号	特願平4-137479	(71) 出願人	591167957 吉川 雄裕 埼玉県川越市南台3丁目7番地10 日本へ キスト社宅304号
(22) 出願日	平成4年(1992)4月15日	(71) 出願人	591167968 吉川 マリ子 埼玉県川越市南台3丁目7番地10 日本へ キスト社宅304号
		(72) 発明者	吉川 雄裕 埼玉県川越市南台3丁目7番地10 日本へ キスト社宅304号
		(72) 発明者	吉川 マリ子 埼玉県川越市南台3丁目7番地10 日本へ キスト社宅304号

(54) 【発明の名称】 化粧料

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 ビタミンD並びにその誘導体を含有することを特徴とする化粧料の効果を増強する。

【構成】 ビタミンD並びにその誘導体を含有することを特徴とする化粧料にビタミンC並びにその誘導体を添加する。

【効果】 ビタミンCまたはビタミンC様活性を持つ誘導体を配合することによりビタミンD含有化粧料の皮膚老化防止、美肌、タンニング効果が一層強化される。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ビタミン D 並びにビタミン D 様活性を持つ誘導体からなる群より選ばれた一種又は二種以上を含有することを特徴とし、さらにビタミン C 並びにビタミン C 様活性を持つ誘導体からなる群より選ばれた一種又は二種以上を含有することを特徴とする皮膚老化予防化粧料、美肌化粧料、タンニング皮膚化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ビタミン D 並びにビタミン D 様活性を持つ誘導体含有することを特徴とした化粧料に、その効果を増強するためにビタミン C 並びにビタミン C 様活性を持つ誘導体含有することを特徴とする皮膚老化予防化粧料、美肌化粧料、タンニング皮膚化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ビタミン D 並びにビタミン D 様活性を持つ誘導体含有することを特徴とする皮膚老化予防化粧料（特開昭 62-263110）、美肌化粧料（特開昭 63-51312）、タンニング皮膚化粧料（特開平 2-178218）等が提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記技術については、効果の点でより一層の改善が望まれている。しかし、これらの効果を増強するための手段はなかった。本発明は、これらの欠点を除くためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】ビタミン D 並びにビタミン

実施例-1 スキンローション

原料成分

プロピレングリコール	
グリセリン	
メチルパラベン	
ポリオキシエチレンヒマシ油誘導体	
エタノール	
1 α , 25-ジヒドロキシ	
コレカルシフェロール	

精製水

実施例-1 からビタミン C を抜いたものを実施例-1 の比較例 (1) とし、実施例-1 から 1 α , 25-ジヒドロキシコレカルシフェロールを抜いたものを実施例-1

実施例-2 スキンクリーム

原料成分

(A) ワセリン	
スクワラン	
セタノール	
ステアリン酸	
1 α , 25-ジヒドロキシ	
コレカルシフェロール	

ポリオキシエチレンモノステアリン酸

ン D 様活性を持つ誘導体を配合した上記化粧料に、ビタミン C 並びにビタミン C 様活性を持つ誘導体を配合する。配合量は、ビタミン D 並びにビタミン D 様活性を持つ誘導体、ビタミン C 並びにビタミン C 様活性を持つ誘導体ともに組成物の総量を基準として 0.00001-5 重量% が好ましく、0.00001 重量% 未満では効果が十分に得られず、5 重量% を超えてもその増加分に見合った効果の増加は望めない。配合比は、ビタミン D 並びにビタミン D 様活性を持つ誘導体を 1 としてビタミン C 並びにビタミン C 様活性を持つ誘導体を 0.001-1000 の範囲が好ましく、この範囲外では、効果が十分に得られない。尚、本発明より提供される皮膚老化予防化粧料、美肌化粧料、タンニング皮膚化粧料には、色素、香料、防腐剤、界面活性剤、有機及び無機顔料、抗酸化剤、アルコール類、エステル類、脂肪酸類、ワックス類、ロウ類、生体関連成分等を本発明の目的を達成する範囲内で適宜配合することができる。

【0005】

【作用】本発明により提供される皮膚老化予防化粧料、美肌化粧料、タンニング皮膚化粧料としては、化粧水、クリーム、乳液、リキッドファンデーション、パウダーファンデーション、ケーキ状ファンデーション、スティック状ファンデーション、メイクアップ、アンダーメイクアップ、ボディローション、バック、サンスクリーン剤、制汗剤、口紅、頬紅等多くのものがあり、使用部位は、全身に及ぶ。

【0006】

【実施例】

配合料 (重量%)

3.0
5.0
0.1
0.5
5.0
0.1

残余

の比較例 (2)、実施例-1 から 1 α , 25-ジヒドロキシコレカルシフェロールとビタミン C を抜いたものを実施例-1 の比較例 (3) とする。

配合料 (重量%)

0.2
12.0
5.9
2.0
0.5

1.3

ソルビタン (20ED)	
モノステアリン酸ソルビタン	0.7
モノステアリン酸セチル	6.0
ブチルパラベン	0.1
香料	適量
(B) 1, 3 ブチレングリコール	6.0
ビタミンC	0.5
メチルパラベン	0.1
水酸化カリウム	0.1
精製水	残余

上記処方物 (A) を混合加熱しこれに上記処方物 (B) を同様に混合加熱したものを加え、攪拌して均一に乳化し、冷却して製品とする。実施例-2 からビタミンC を抜いたものを実施例-2 の比較例 (1) とし、実施例-2 から 1 α , 25-ジヒドロキシコレカルシフェロールを抜いたものを実施例-1 の比較例 (2)、実施例-2 から 1 α , 25-ジヒドロキシコレカルシフェロールとビタミンC を抜いたものを実施例-2 の比較例 (3) とする。

【0007】 (1) タンニング効果試験

被験者 10 名に実施例-1、実施例-1 の比較例

(1)、実施例-1 の比較例 (2)、実施例-1 の比較例 (3) の合計 4 品について、被験者の背部皮膚に 3 cm 四方の試験部位を設定し、試料を一日一回 200 mg 塗布し、これを一ヶ月間連続して行った。一ヶ月後、試

	著効	有効	無効	(人)
実施例-1	8	2	0	
実施例-1 の 比較例 (1)	5	3	2	
実施例-1 の 比較例 (2)	0	1	9	
実施例-1 の 比較例 (2)	0	2	8	

(2) 官能効果試験

試験部位とその回りの皮膚明暗度を比較して、その効果を著効、有効、無効に分けて評価した。

(2) 官能効果試験

被験者 10 名に実施例-2、実施例-2 の比較例

(1)、実施例-2 の比較例 (2)、実施例-2 の比較例 (3) の合計 4 品について、被験者の上腕部皮膚に 2 cm 四方の試験部位を設定し、試料を一日一回 100 mg 塗布し、これを一ヶ月間連続して行った。一ヶ月後、試験部位とその回りの皮膚の、はり、つや、なめらかさ、みずみずしさを比較して、その効果を著効、有効、無効に分けて評価した。

【0008】上記の 2 つの試験の結果は、以下に示す通りである。

(1) タンニング効果試験

(A) 皮膚のはり

	著効	有効	無効	(人)
実施例-2	8	2	0	
実施例-2の 比較例(1)	6	3	1	
実施例-2の 比較例(2)	1	5	4	
実施例-2の 比較例(3)	0	3	7	

(B) 皮膚のつや

	著効	有効	無効	(人)
実施例-2	6	4	0	
実施例-2の 比較例(1)	4	4	2	
実施例-2の 比較例(2)	0	5	5	
実施例-2の 比較例(3)	0	2	8	

(C) 皮膚のなめらかさ

	著効	有効	無効	(人)
実施例-2	7	2	1	
実施例-2の 比較例(1)	4	5	1	
実施例-2の 比較例(2)	0	5	5	
実施例-2の 比較例(3)	0	3	7	

(D) 皮膚のみずみずしさ

	著効	有効	無効	(人)
実施例-2	8	2	0	
実施例-2の 比較例(1)	5	4	1	

実施例-2の 比較例(2)	1	5	4
実施例-2の 比較例(3)	0	3	7

【発明の効果】本発明化粧料は、皮膚老化予防、美肌効果、タンニング効果に優れた化粧料である。また、被験者の一人として、皮膚の異常を訴えなかったことより、本発明化粧料は、安全性の面でも優れている。